

第4学年3組 算数科学習指導案

令和5年5月11日(木) 第4限 4の3教室

1 単元 折れ線グラフ (本時5/6)

2 目標

2つのグラフを関連づけて読み取り、その特徴にふれながらよさを説明することができる。

【思考力・判断力・表現力】

3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5) 把握 (1)	1 折れ線グラフの書き方やよさを確認する。 2 問題を把握する。(教 p.34-1) ・表には、何が表されているのか確認する。 3 本時の学習課題を確認する。	・折れ線グラフの書き方やよさを想起できるように掲示物を示す。 ・地球儀で東京とシドニーの位置を示す。
	2つのグラフを1つにまとめて表す理由を説明しよう	
展開 (3 2)	4 シドニーの月別気温の変わり方をワークシートにグラフで表し、気付いたことを個人でノートにまとめる。 ・シドニーの折れ線グラフは谷型、東京の折れ線グラフは山型になっている。 5 クラスで意見交流する。 ・違いがよく分かるね。 ・なぜ東京とシドニーでは1年間を通して気温の変化がこんなにも違うのだろう。 6 問題を把握する。(p 35-2ア、イ) ・縦軸に2つの単位を表すグラフを読み取る。 ・気温が一番高かったのは、7月と8月だね。 ・7月と8月の降水量はどうなっているかな。 ・この問題は、折れ線グラフと棒グラフが一つのグラフになっているね。 ・気付いたことについて話し合う。(p 35-2ウ) ・気温と降水量の関係が分かりやすいね。 ・なぜ7月は降水量が多いのだろう。 ・気温が低い冬でも降水量が多くなっているね。 7 クラス全体で意見交流をする。 ・気温は山型で、降水量は凸凹になっているね。 ・7月は降水量が530mmで、いちばん多い。 ・台風の影響もあると思います。 ・夏も冬も降水量が多いね。	・比較しやすいように赤色を使用することを伝える。 ・縦軸や横軸の目盛りに着目させる。 ・山型に気付くことができるように、前時で使用した拡大グラフを掲示しておく。 ・事実から関連づけて、考察することができるように、同じ月で比べることやなぜ山型や谷型のグラフになるのかの視点を与える。 ・拡大グラフを掲示し、理解を促す。 ※縦軸に着目させ、本問題では気温と降水量を比較し、関連づけられるように発問する。 ・机間指導し、丸付けを行う。 ・話し合いが滞るチームには、「なぜ」「どうして」または、「いちばん気温が高いのは」と視点を与えられるような声掛けを行う。 ・2つのグラフを関連づけて、比較や原因を推測している児童の考えや意見を称賛する。 ・児童の言葉を用いて、話し合いを促すようにする。 ・グラフのよさと1つにまとめたグラフのよさについての意見を分けて板書する。 ・振り返りがしやすいように、2つのことがらを1つのグラフに表すよさについての意見は、赤線でまとめる。 ・学習課題を再度確認し、わかったこと、どのように学んだか、友達から学んだことなどについて、書くように指示する。 ・より身近に感じられるように、岡崎市の月別気温と降水量のグラフを用意し、興味を持たせる。
整理 (7)	8 本時の振り返り ・2つのことがらがまとめてあると分かりやすい。 ・比べたいものは、1つにまとめて書くと分かりやすい。	

5 評価

2つのことがらが1つにまとめられていることで、比較や原因の予想がより容易になることに気づき、友達に伝えることができる。

(活動4のワークシート、活動5～8のノートと発言から)